

橘町の弥生時代

武雄市教育委員会 戸田龍蔵

1、教科書上での弥生時代の記載

小学6年：稲作の広がり、大規模集落による「くに」の登場、邪馬台国・卑弥呼

中学：稲作の広がり、青銅器・鉄器の伝来、弥生土器、「くに」の登場、海外（古代中国）の資料にみる日本（倭）

2、『弥生時代』の由来とその認識

明治17年：「弥生町遺跡」から発見された土器の名称が「弥生式土器」と付けられた

→当初は縄文土器の一種として認識

明治31年：弥生式土器が複数検出、縄文土器と比較して別種とされ、弥生土器の使われる時代を『弥生時代』と命名

大正期：縄文土器と弥生時代について論争

→縄文土器が弥生土器よりも古いことが調査・研究により判明し、「縄文時代から弥生時代へ」の変遷が始まる

昭和11～12年：奈良県唐古遺跡の発掘調査で、弥生土器と農機具が発見されたことで弥生土器の時代に農耕が行われていたことが判明

昭和22～25年：静岡県登呂遺跡の発掘調査で、弥生時代の水田遺構が発見（日本発）

3、弥生時代の特徴と研究の視点

弥生時代を捉える上でのポイント

- ・稲作を主とする食料生産による生活体系への移行
- ・青銅器・鉄器の伝来
- ・階級の成立、国家形成に至る過程

※縄文時代との比較

縄文時代	弥生時代
狩猟採集を基礎とする定住化 磨製石器の普及	稲作を基礎とする 青銅器・鉄器の伝来

弥生時代研究の切り口

・弥生土器

→地域性、前後関係(編年)

・環濠集落や水田跡など

→

・青銅器や鉄器

→銅鏡、銅鐸、鉄鏃、鉄剣など

・墓制

→支石墓、甕棺墓、墳丘墓など

●弥生時代の有名な遺跡

砂沢遺跡(青森県弘前市):弥生時代前期の水田跡

唐古・鍵遺跡(奈良県田原本町):弥生時代の環濠集落跡、青銅器の製造跡

荒神谷遺跡(島根県出雲市):大量の青銅器

吉野ヶ里遺跡(佐賀県神埼市、吉野ヶ里町):弥生時代の環濠集落跡

4、橘町内の事例紹介

・釈迦寺遺跡(武雄市橘町大字片白字釈迦寺に所在)

昭和6年頃:県道新設工事の際、甕棺30基以上確認

昭和46年:県道拡幅工事の際、甕棺10基を確認

昭和63年:県道拡幅工事に伴い、発掘調査を実施。古墳1基、甕棺墓75基、石棺墓2基、石蓋土壙墓2基、土壙墓4基、確認

→弥生時代前期末、中期初頭から半ばか

銅剣・銅戈・銅鉈が副葬品として出土【佐賀県重要文化財】

・みやこ遺跡(武雄市橘町大字大日字郷ノ木に所在)

六角川河川改修工事に際して、発掘調査を実施。甕棺墓、石棺墓、土壙墓を多く確認。多くの弥生土器、銅鏡片、鉄器類を確認。

→弥生時代前期・中期・後期、中世、近世の複合遺跡。

・郷ノ木遺跡(武雄市橘町大字大日字郷ノ木に所在)

六角川河川改修工事に際して、発掘調査を実施。

→弥生時代前期末・中期・後期、近世、近代の複合遺跡。

小形仿製鏡が出土【武雄市重要文化財】

※仿製鏡:弥生時代後期から古墳時代にかけて、中国鏡をまねて日本国内で作られた鏡

・茂手遺跡(武雄市橘町大字大日字茂手に所在)

六角川河川改修工事に際して、発掘調査を実施。

→弥生時代後期、古墳時代、中世、近世の複合遺跡。

小形仿製鏡が出土

有鉤釧形銅製品【佐賀県重要文化財】

・納手遺跡(武雄市橘町大字大日字納手に所在)

六角川河川改修工事に際して、発掘調査を実施。

→弥生時代後期、古墳時代、中世、近世の複合遺跡。

小形仿製鏡が出土

●おおよその時期区分

弥生時代前期:みやこ遺跡、郷ノ木遺跡、釈迦寺遺跡

弥生時代中期:みやこ遺跡、郷ノ木遺跡、釈迦寺遺跡

弥生時代後期:みやこ遺跡、郷ノ木遺跡、茂手遺跡、納手遺跡

古墳期

-10 ~ 5

-5 ~ 2

-2 ~ 1

-1 ~ +3

5 ~

+3

5、古代中国の資料上の日本(倭)

- ・『漢書』地理誌燕地条
- ・『後漢書』東夷伝
- ・『三国志』魏書 烏丸鮮卑東夷伝 倭人条(魏志倭人伝)

※この他にも日本(倭)についての記述がみられる資料は存在するが、伝説も混ざった資料でもあるため注意が必要か